

平和な世界になってほしい

旭小学校 5年 横田 詩織

日本が79年前に戦争をしていたことを、みなさんは知っていますか？

私はくわしく知らなかったので、「あの日ぼくらは戦場で」という本を読みました。この本は、強制的に「ごきょうたい」にしょう集され、きびしい訓練を受け、アメリカ軍と戦った少年たちの実さいにあった話です。

少年たちは常に上官の指示にしたがい、てきをころすことだけを聞かされ、自分の命をゆうせんできない、やるせない気持ちと残念さで、自分の命のおしさも、こきょうをこわす苦しみも、何も感じなくなっていました。心がマヒしたのです。戦争が終わっても、戦争にまきこまれた人たちは、今も苦しめられています。戦争などのトラウマ体験をした人は、時間が経ってもフラッシュバックや悪夢で精神がえぐられてしまいます。これをPTSD(心的外しょう後ストレスしょう害)と言います。今も戦争にとらわれてしまい、つらい経験からのがれることが出来ないのです。

世界に目を向けてみると、言葉にならないほど残こくなふん争や内戦がいたる所で起こっていること。そして今もなお続いていることを知りました。

いつの時代もぎせいになるのは、その国に住んでいる人や兵士なのです。人はだれかをころし、だれかにころされるために生まれてきたのでしょうか。少なくとも、人は幸せになるために生まれてきたのだと思います。戦争にメリットなんてありません。理ふじんな理由で戦争をしてはいけません。戦争をした国もされた国も、ぎせい者を出してしまいます。だから戦争をしたら「負け」なんだと思います。

2030 年までに達成すべきもくひょうである SDGs の 16 番目に「平和と公正をすべての人に」があります。あと 6 年で達成出来るのでしょうか。達成するために何をすればよいのでしょうか。まずはそこから、考えていきたいです。今、幸せにくらしている人のおかげで、苦しんでいる人がいるということを学ばないといけません。そして、戦争は命をうばい、心になおらないキズをつけてしまうことを、戦争が終わり、何十年、何百年経った世界にも伝えていきたいです。それが平和への第一歩だと私は思います。